

## 理事長就任の挨拶

日本周産期メンタルヘルス学会理事長  
鈴木 利人

このたび2019年4月1日をもって、日本周産期メンタルヘルス学会理事長を拝命することとなりました鈴木でございます。前理事長の岡野禎治先生の後を継いで第2代の理事長となりますが、就任にあたり一言ご挨拶させていただきます。



本学会は2003年に岡野禎治先生が創設された研究会を前身として、2014年11月に学会に改称されました。翌年2015年4月には日本学術会議の協力学術研究団体の指定を受けています。学会として改組した後、周産期のメンタルヘルスに関する研究の推進と臨床研究者の相互協力、および国内外の関連学会との連携・交流を図ることを目的として活動しています。この二つの目的に向けて毎年発展を続け、本学会は現在およそ560名の会員から成り立っています。周産期のメンタルヘルスに対する全国的な関心の高まりを反映して学術集会も年々参加者数は増加の一途をたどり、シンポジウムやポスター発表でも内容の充実した演題が多数発表されるようになりました。

一方、本学会のもう一つの目的であります関連学会との連携・交流では、日本産婦人科医会と日本産科婦人科学会のご協力を得て、2017年3月に周産期メンタルヘルスコンセンサスガイドを発刊することができました。また日本精神神経学会の学術総会では毎年本学会推薦による周産期メンタルヘルスに関するシンポジウムが採択され、多くの精神科医に対して周産期メンタルヘルスの重要性や意義を啓蒙し専門知識の向上を目指した活動も行われるようになりました。

わが国における周産期メンタルヘルスの医療現場では、今もなお多くの克服すべき課題を抱えています。精神疾患合併妊娠の患者様への円滑な医療連携、産後うつ病に対する迅速な対応と自殺予防、妊娠・授乳と向精神薬の適切な理解など取り組む課題は少なくありません。本学会は、産科医、精神科医、心療内科医、小児科医、助産師、看護師、公認心理師、保健師、薬剤師などの多職種からなる幅広い分野におよぶ学会であり、妊娠中や産後の患者様のより安全で幸せな生活の実現を目指して、まさにこれらの多職種の円滑な連携が必要とされています。

今日の本学会の躍進は、創設から現在におよぶ16年間理事長としてご尽力された岡野禎治先生のご熱意とそのご活動を支えてこられた関係各位の皆様方のご努力の賜物であります。これからは黎明期を過ぎた新たな飛躍の時期を迎えることとなりますが、今後も本学会の設立趣旨を遵守し、精神科学、産婦人科学、看護学（助産、精神看護）の3つの領域から輪番制で学術集会を開催したいと考えています。

本学会のますますの発展のために関係各位の皆様方のこれまで以上のご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

2019年4月吉日